



POD2

Line6 TubeTone Digital Guitar Amplifire System

取扱説明書



株式会社サウンドハウス

Professional Sound Equipment
S p e c i a l i s t

〒286-0044 千葉県成田市不動ヶ岡 1958

TEL:0476-22-9333 FAX:0476-22-9334

目次

はじめに	4
QUICK START GUIDE	5
CONTROLS & CONNECTIONS.....	6
GETTING SET UP	11
I. ALL PURPOSE BASICS.....	11
II. SCENARIO ONE (スタジオでの使用)	11
III. SCENARIO TWO (ライブでの使用)	16
POD EFFECTS.....	17
CREATING & STORING	20
DEEP EDITING & MIDI CONTROL	22
POD2 バージョンアップ内容のご案内	37

はじめに

この度は、LINE6 社製の POD2 をお買い上げ頂き、誠に有り難うございます。

POD の性能をフルに発揮させ、末永くお使い頂く為に、ご使用になる前にこの取り扱い説明書を必ずお読み下さい。尚、お読みになった後は、保証書と一緒に大切に保管して下さい。

ご使用の前に

1. この取り扱い説明書にしたがって操作して下さい。
2. 水には大変弱いので、雨などがかからないよう充分ご注意下さい。
3. 内部には精密な電子部品が多数実装されています。移動及び輸送時には大きな衝撃が加わらないようにして下さい。
4. 本機の設置場所は直射日光の当たる場所やストーブの直前など、高温になりやすい場所を避け、なるべく通気性の良い場所で御使用下さい。
5. 定格電圧 AC100V, 50/60Hz で御使用下さい。
6. 電源コードは機材への挟みこみ等、無理な力が加わらない様御注意下さい。
7. 信号の入出力端子に、許容範囲を越える異常電圧が加わらない様にして下さい。
8. 故障や感電事故を防止すると共に、性能を維持する為にも、ケースを開けて内部に触れたりしないでください。修理が必要な時には、販売店、もしくは輸入代理店までお問い合わせ下さい。

Quick Start Guide

1. POD のアウトプット・コントロールをゼロまで回して下さい。
2. POD のレフトとライト・アウトプットをレコーダー、ミキサーの入力へ、又はレフト出力からギターアンプの入力へプラグを差し込んで下さい。
3. ギターアンプへ接続する場合、A.I.R スイッチを “ AMP ” に設定して下さい。それ以外の場合は “ DIRECT ” に設定します。
4. AC アダプターを POD のパワー・コネクターへ差し込んで下さい。その後、コードを AC コンセントへ差し込みます。
5. ギターと POD の インプット・ジャックを接続します。
6. 電源を入れます。
7. AMP MODEL を選択します。
8. チャンネルのボリュームを最大にして、ベース、ミッド、トレブルをお好きなボリューム・レベルにを設定して下さい。
9. エフェクト設定を選びリバーブ・レベルとエフェクト Tweak を調節します。これにより好みのサウンドを作ることができます。タップテンポ・ボタンを押してエフェクトのスピードを設定します。
10. プリセット設定を使う際は、上向きと下向きの矢印を使用します。さあ、弾きまくりましょう。

CONTROLS & CONNECTIONS

1. **Power Switch** : POD の右端。POD のオン/オフ・スイッチです。
2. **Input** : POD の右下。ここにギターからの出力を入れます。(モノラル又は、アンバランスの接続を選択します)
3. **Phones** : POD の左下。ヘッドフォンを使用する際は、ここにプラグを差し込みます。
4. **Output Level** : POD の左端のノブ。POD の全体的な出力のレベルとヘッドフォン・レベルの調節をします。POD のメモリー・ロケーションを保存する際でも、この設定は保存されません。出力レベルを変更しても音色は変化しない為、ボリューム・レベルに関係なく好きな音作りができます。
5. **Left & Right Output** : POD の左上。バランス型 1/4TRS コネクター、+4dBu のバランス型機器と、標準ギター・ケーブルを使った-10dBV 機器両方に対応しています。モノラルで POD を動作する場合は、左側のアウトプットを御使用下さい。(POD の左側のアウトプットが接続され、ヘッドフォンが接続されていない場合、音はモノラルになり、エフェクト処理を正しくサミング(合算)する為、ロータリースピーカーのシュミレーションもモノラルで再生されます。ヘッドフォンを接続すると、ステレオで動作します)。
6. **A.I.R. Mode** : レフトとライト出力の間に位置します。“フロント・エンド”として POD を使用して、ギターアンプに POD を接続する場合、A.I.R. Mode スイッチを AMP 側へ入れて、クリーンな音になるようにアンプを設定します。スイッチを反対側に入れた場合 A.I.R.処理によるスピーカー/マイク/ルーム/のシミュレーション機能を解除します。POD をその他の設定で使用する場合(ミキサー、レコーダー、PA、パワーアンプ等へ直接接続する)、A.I.R.スイッチを“DIRECT”にしてください。アンプへ接続している時は、ヘッドフォンを接続しないでください。もしそのまま使用された場合 A.I.R.スイッチの位置がオーバーライトされ A.I.R.がオンになる為、ヘッドフォンの音は問題ないのですが、アンプの音がおかしくなります。
7. **Foot Pedal Connector** : POD の上部。電話のコネクターに形が似ています。ここにオプションの FLOOR BOARD や FB4 フット・コントローラーを接続します。
8. **MIDI In & Out** : POD の右上。POD を MIDI 機器に接続してチャンネル・メモリーを選択するか(プログラムチェンジ・メッセージを使って)、POD の操作を(コントローラー又は Sysex を使って)行います。Emagic SoundDiver のソフトウェアには、コンピューター上のサウンドの編集/保存を行なう POD Tools CD が付いています。POD MIDI OUT は接続する機器の MIDI IN へ接続します。(その MIDI IN は MIDI OUT へ接続してください)。Deep Editing と MIDI Control、MIDI ギアの設定、MIDI 機器と POD の接続方法に関しては、P22「Deep Editing と MIDI Control」を参照して下さい。
9. **Manual Button** : POD の中心部。ボタンを押してライトが点灯するとマニュアルモードが作動します。このモードでは、ノブを設定したところで聞く事ができます。
10. **Channel Up/Down Buttons** : Manual ボタンの左側。POD は 36 種類のアンプシュミレーターが組み込まれ、これらは 4 チャンネルのバンクにアレンジされています。(4 つのチャンネル

は A、B、C、D に分かれています)。各バンクは 4 つのギターアンプがあるのと同じ様に考えて下さい。そして、この後のセクションで記載されている POD 用オプションの Line 6 フットコントローラー (Floor Board と FB4) は同じレイアウトを使用しています。Up と Down ボタンを押して POD のチャンネルにアクセスします。次のチャンネルへ行く時はどちらかのボタンを押して下さい。Up/Down ボタンをホールドすると次のバンクへ変わります。Manual モードが使われていない時は Manual ボタンのライトは消えています。チャンネルを呼び出す時は、その設定は現在のノブの位置と関連しません。ノブを回すだけでどんな変更も簡単に行なうことができます。詳しい説明に関しては、この後のセクションを参照して下さい。

11. **Amp Model Selector** : 文字で囲まれた左下ノブ。ノブを回すと、POD 内のアンプシミュレーションによって音が変わります。(P27 の AMP MODEL リストを参照して下さい)。ノブを使って Amp Models をあわせると、直ちに 4 種類のカスタム・サウンドを得る事ができます。ノブを “cleanest” (Small Tweed) から “Dirtiest” (Fuzz Box) へ時計周りに回し、お好みの AMP サウンドを選択して下さい。その他にギター用ではないチューブ・プリアンプもあります。
12. **Drive** : Output Level の上に付いているノブ。このノブは選択したアンプモデルの入力をどれくらいドライブするかをコントロールします。マスターボリュームのないギター・アンプの入力ボリューム・コントロールと同様です。高く設定するほど歪みが多くなります。
13. **Tone Controls** : 上部左側ノブ。ベース、ミッド、トレブルです。通常のギターアンプと同様にアンプモデルを変更すると、リスパンスとコントロールの相互作用が変わり、アンプモデルが似ているオリジナル・アンプのトーン・コントロールと同じ様に作動します。POD はプレゼンス・スイッチがあり、タップテンポ・ボタンをホールドし、トレブル・ノブを回すとオン/オフできます。詳細はタップテンポ機能の章を参照して下さい。
14. **Channel Volume** : 演奏している “チャンネル” のボリューム・レベルをコントロールします。2 つの別々のチャンネルに保存された音の間のレベルを均等にする為に使用します。(例えばバックイングとリード・トーン)。通常、最良の S/N 比パフォーマンスを確実に得る為にチャンネル・ボリュームをできるだけ高く設定します。
15. **Reverb Level** : POD には 2 種類のリバーブ機能、チューブトーンのスプリング・リバーブとルーム・リバーブ・トーンがあります。どちらを使用するかは、どのアンプモデルを選択するかによって決まります。通常は、オリジナルのアンプと同じリバーブを選びますが、リバーブ機能がない Brit Classic モデルの 1968 Marshall “Plexi” 等の場合、ルームリバーブ・トーンを使います。詳細は Appendix A を参照して下さい。
16. **Effect Tweak** : エフェクトのかかり具合、効き具合を補正するのがこのエフェクト Tweak です。エフェクトを上げると、音は深みが出たり、大きくなったり又、より自然になります。エフェクトのスピード (ディレイ、トレモロ、コーラス、フランジャー、ロータリー・スピーカー) は、タップテンポ・スイッチ (20 を参照) によって設定されます。エフェクト・パラメーターに関しては Appendix B 又は、エフェクトの章を参照して下さい。Effect ノブが Bypass になっている場合、Effect Tweak

来ます。(チューナー・モードに入るとナチュラルかフラットのどちらかで表示されます。例えば G の場合 A が表示されます)。左側の矢印が点灯すると基音より低く、右側の矢印が点灯すると基音より高くなっている事を表示します。両方が点灯するとチューニングが合っているということになります。本体のボタンのどれか 1 つを押すと、音が消え通常のオペレーションに戻ります。

Tuner Volume : チューナーが作動している時に(チューナー・モードを使用していない時、ボリュームは変わりません)、チャンネル・ボリュームのノブを回すとチューニング時のボリュームを調節する事ができます。フロアボードを接続すると、ボリュームペダルでチューナー・ボリュームを調節します。

Tuner Reference : A=440Hz とは異なる値でチューニングする場合はどのようにしたら良いのでしょうか? まずチューナー・モードを使用している時に、ディスプレイを見ながら Mid ノブを回します。これで周波数を 436 ~ 445Hz の間に設定する事ができます。この値の設定は保存される為、違う値に変更したい事がない限り使用するたびにリセットする必要はありません。値は 1 桁分しか表示されません。例えば、チューナーを 441Hz に設定すると、画面には 1 と表示されます。

19.Noise Gate : POD の Noise Gate をオン/オフします。詳細に関してはエフェクトを参照して下さい。

20.Tap Tempo : このタップテンポによる調節機能はトレモロ/コーラス/フランジャー/ロータリー用スピーカーのディレイの速度又は、現在使用しているテンポを制御し表示します。コーラスとフランジャー用エフェクトの速度は、ボタンの点滅によって表示され、その速度はエフェクトに比べ 2 倍の速さで設定されている為、長いタップの間を実際の 1/2 の時間で処理できます。トレモロの場合、タップテンポはトレモロ用エフェクトに比べ半分の速度で設定し表示されます。ブルース・リーと同じくらいの速さでタップする事ができなくても、速いトレモロの設定を得る事が可能です。タップテンポ・コントロールは、単に必要なテンポでボタンを押すだけです。タップテンポ・ボタンをホールドしエフェクトのテンポ又はスピードを変更する Effect Tweak ノブを回すと、丁度良い値にタップテンポを設定する事もできます。詳細はエフェクトの章を参照して下さい。Appendix B のエフェクト・パラメーターは、どのタップテンポがどのエフェクト設定をコントロールするのか分かるようになっています。

Tap Tempo エクストラ機能 : タップテンポ・ボタンはプレゼンス・ブースト、ボリューム・ブースト、ドライブ・ブーストへアクセスする事ができます。タップテンポ・ボタンを押したままにすると幾つかのノブによってエクストラ機能へアクセスする事ができます。以下詳細を参照して下さい。

Amp Model 17-32 : タップテンポ・ボタンをホールドしたまま、**Amp Model** ノブを回すと、

17-32 のアンプモデルが選択できます。(P27 の AMP MODEL リストを参照して下さい)

Cab Model Select(Effects Knob): タップテンポ・ボタンをホールドしたまま **Effects** ノブを回すと、キャビネットモデルが選択できます。キャビネットモデルはグレーの文字でボディにプリントされています。(APEPENDIX E の CABINET MODEL リストも参照して下さい)

Drive Boost On/Off(Drive Knob): タップテンポ・ボタンをホールドしたまま **Drive** ノブを 12 時の位置より少し右側の方へ回すとディストーションペダルの歪みコントロールを低く設定し、OUTPUT レベルを高く設定したディストーション・ペダルのような深い歪みを得ることが出来ます。Amp Model に到達する前にギター信号をブーストする為、とてもすごいディストーションとなります。これはフロアーボードで **DISTORTION** を ON にした時と同じ効果です。ディストーションをオンにすると、チャンネル A のライトが点灯します。

Delay Repeats(Bass Knob): タップテンポ・ボタンをホールドしたまま **Bass** ノブを回すとディレイのリピート回数の設定ができます。

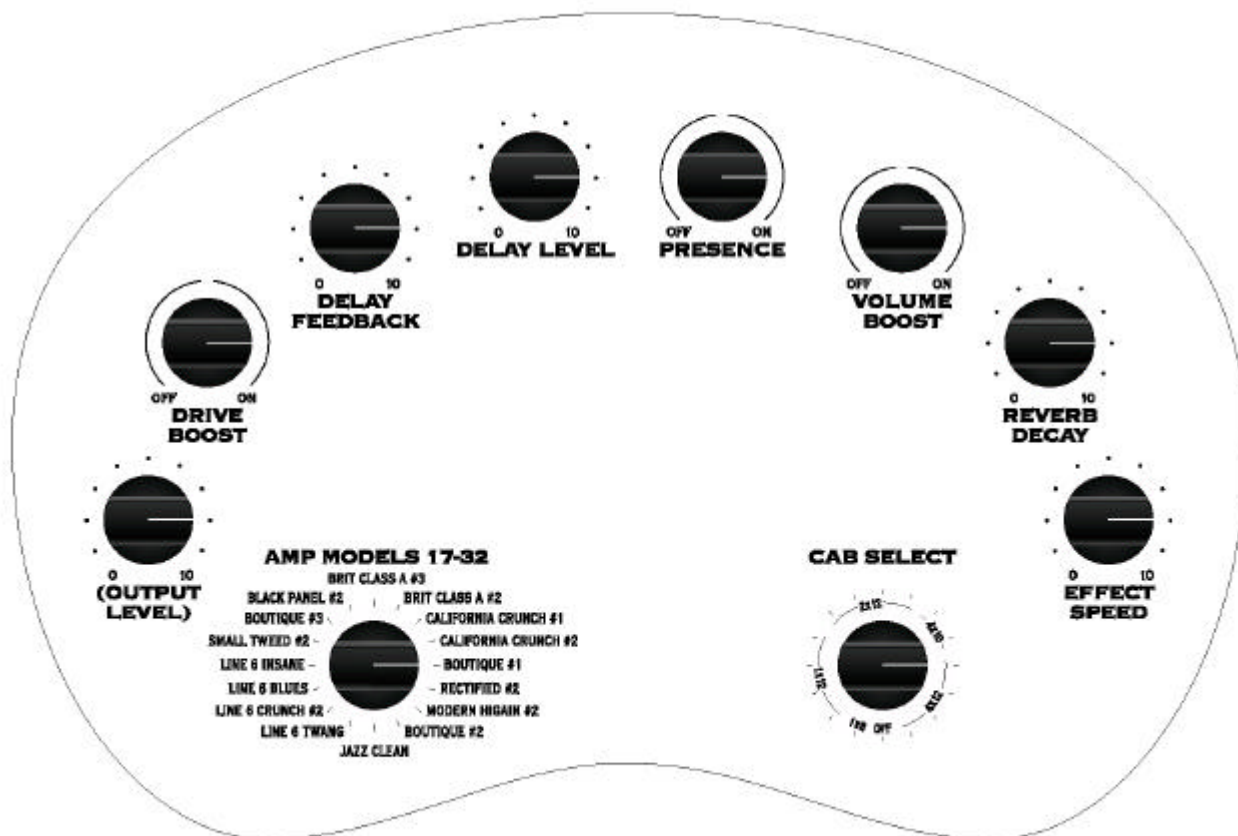
Delay Level(Middle Knob): タップテンポ・ボタンをホールドしたまま **Middle** ノブを回すとディレイレベルの設定ができます。

Presence Bump On/Off(Treble Knob): タップテンポ・ボタンをホールドしたまま **Treble** ノブを 12 時の位置よりも少し右側の方へ回すと、音色を明るくするプレゼンス・ブーストを得る事が出来ます。これはフロアーボードで EQ をブーストする事と同じです。プレゼンス回路をオンにすると、チャンネル C のライトが点灯します。

Channel Volume On/Off(Chan Vol Knob): タップテンポ・ボタンを押しながら **Channel Volume** ノブを 12 時の位置より少し右側の方へ回すと、ボリューム・ブーストが機動します。これはリード・ブーストの様に歪ませずにボリュームをブーストします。フロアーボードで DRIVE/BOOST を ON にした時と全く同じです。ドライブ・ブーストをオンにすると、チャンネル B のライトが点灯します。

Reverb Decay Time(Reverb Knob): タップテンポ・ボタンを押しながら **Reverb** ノブを回すと、リバーブのディケイタイムを設定できます。

Effect Speed(Effect Tweak Knob): タップテンポ・ボタンを押しながら **Effect** ノブを回すと、エフェクトスピードの最適な設定が可能です。



Hold the TAP button to access these features

21. Save : 自分で作ったサウンドを保存する時にこのボタンを使います。前もってプログラムされた POD プリセットの 1 つを使用する際、1～9 の番号と A～D のチャンネルの文字がディスプレイに表示されます。そしてどれか 1 つのノブを回すと、“EDITED” の文字がディスプレイの左端に表示されます。これはチャンネルをセーブすることを忘れないようにする為、表示されます。変更保存する場合は Save (21) を押します。セーブボタンが点滅し始めたら、Up/Down ボタンを押して下さい。1～9 のバンク内の A、B、C、D から保存先を選び、Save ボタンを再度押します。Save ボタンの点滅が止まり、選択した場所にサウンドが保存されます。前に保存されたサウンドは上書きされます。保存した後は、アップ/ダウンのボタンを押すだけで保存先を呼び出す事ができます。

前もってプログラムされたサウンドを使用しない場合は、マニュアル・モードにおいて、ノブが設定されている所のサウンドが得られます。その設定値を保存したい場合、上記と同じ方法で保存先を行って下さい。(アップ/ダウン・ボタンを使って保存先を選択し、再度 Save ボタンを押すと完了になります)。

セーブする前に、“プリセット” に記憶されたサウンドをテストしたいことがあるかもしれません。その際、オーバーライトしても良い保存先を覚えておくとい良いでしょう。

注：セーブをし始めた後、その処理を止めたい場合は、タップテンポ、マニュアル、チューナー、ノイズゲート又は、MIDI ボタンのいずれかを押してセーブモードをキャンセルする事が出来ます。（セーブボタンを押してから 5 秒間の間どのボタンも押さなければ保存はキャンセルされます）

22.MIDI：MIDI チャンネルの設定とサウンドのダンプを MIDI 経由で実行するのに使用します。詳細は Deep Editing & MIDI Control を参照して下さい。

GETTING SET UP

以下の、黒いボックスの中に書かれている番号は後ろのカバーに図解されている POD のノブ番号を指しています。

I. ALL PURPOSE BASICS

POD の AC アダプターをコンセントに差し込んで、コードを右側にある 電源用 AC アダプターへ接続してください。ギター出力を POD の入力へ差し込みます。POD の音をヘッドホンで聞きたい場合、フォンジャックにヘッドホン・プラグを接続してください。レコーディング・スタジオで使用する場合は、以下の Scenario One を参照してください。ライブ演奏する場合は、Scenario Two を参照してください。

II. SCENARIO ONE（スタジオでの使用）

POD をレコーディングで使用する場合、正しくセットアップする為に以下をまずお読み下さい。

Mount Up：POD を設置する最適な場所を捜すにあたって、オプションのデスクアダプター、アンプトップ、POD 用マイクスタンドにも目を通して置いて下さい。これらは POD Tools CD と Line 6 のホームページに記述されています。

Gimme Some A.I.R.：POD の出力をギターアンプの入力以外へ接続する場合、A.I.R. スイッチを “Direct” にしてください。このモードにおいて、A.I.R. DSP はアクティブになります。このスピーカー・キャビネット・エアー・マイクロフォンは音を再現することができる為、「通常のギターアンプとマイクのセットアップがもう使えない」と思う程素晴らしいものです。POD の 1/4 TRS 出力は多目的に使用でき、POD が音をプロセスしたバランスの+4dBu 又は、アンバランス入力の-10dBV で送ることができます。最良のパフォーマンスを得るには、質の良いケーブルを御使用頂く事をお勧めしています。

Ready To Play Anywhere：POD はどんな周辺機器とも一緒に使うことができます。何百万もする SSL コンソールの横でもカセット・レコーダーの隣でも、どこでもアットホームに活躍します。接続の手順としては、簡単な物から複雑なレコーディング・システムまで以下の通りです。

Boom Boxes & Small Portable Studios（小スタジオ）

POD の出力 を外部機器の入力へ接続します。理想としては、左右両方の出力をお手持ちの機材に接続しステレオで使います。その場合、A.I.R.スイッチ が “ Direct ” に設定されているか確認し、ギターをギター入力 へ差し込みます。POD の Output Level を設定して機材には十分な信号が流れて、かつオーバードライビングや歪みが生じない程の大きさにします。Amp Model Selector を POD Clean にします。Drive を 9 時か 10 時の位置に設定し、Channel Volume を最大にしてください。そして POD のアウトプット・レベルのノブとお手持ちの機材の入力用ボリューム・コントロールを使って入力をオーバードライブによる不愉快な歪みを引き起こさないまま POD から最大の音量を得られるようにします。ヘッドフォンがあれば、システムを通して聞く音と同じかどうか比べる為に、ヘッドフォン出力へ差し込みます。ヘッドフォンを着ける前に、音が大きくなり過ぎていないか確認してください。ヘッドフォン・レベルも出力レベルによって設定されています。

Big Time Connections (大スタジオ)

ミキサーとマルチトラック・レコーダーを含む設定又は、コンピューター・ベース、デジタル・オーディオ・ワークステーションの設定にはいくつかの選択肢があります。MIDI コンピューター・ユーザーの場合、Deep Editing & MIDI Control の章を参照して、POD に付いている MIDI コントロール (例えば Tools CD に含まれる Sound Diver editor プログラム) についての詳細を読んで下さい。

First Time's Charm : POD の A.I.R.スイッチ が “ Direct ” に設定されているか確認して下さい。普通に、ギターケーブルを POD に接続し、+4dBu ステレオ TRS 1/4 (3 極フォン) の左右両方の出力を周辺機器 (POD の出力は -10dBV やアンバランスの機器にも合います) の入力に接続します。POD はギターの音进行处理し、それをトラックからテープやディスクへ書き込むことができます。

Changing History : ギターのトラックを録音してから何週間も過去のデーターにさかのぼってアンプとエフェクター設定を変更することが可能になりました。従来のギターアンプ・システムでは考える事が出来なかった、柔軟で豊富なバラエティーのあるセッティングをミックスダウン時に再現する事が出来るようになりました。以下は、動作環境とその他接続に関する詳細になります。

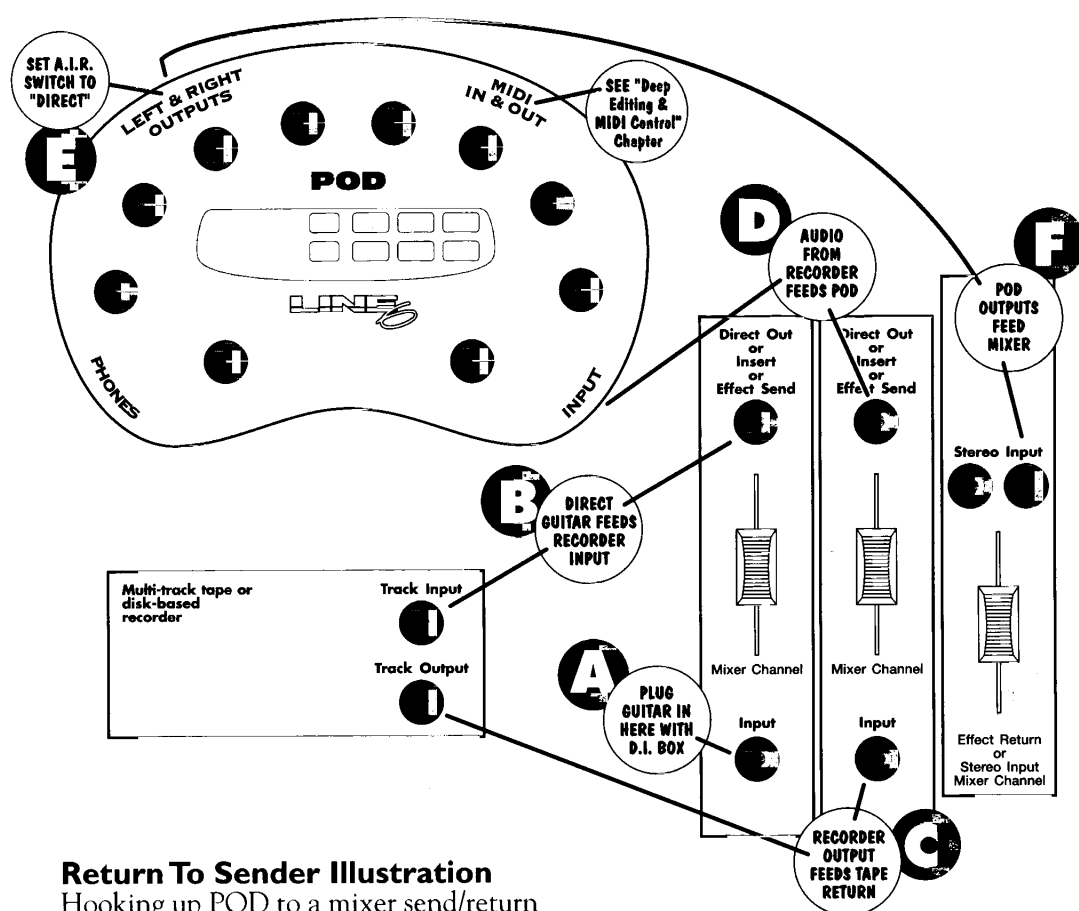
Direct Injection : センド/リターンを使用する時は、ギターをレコーダーやミキサーのダイレクト入力または、コンピューター・ベースのオーディオ・システムの入力へ接続してください。ミキサーのチャンネルにギター出力を接続する場合はどうでしょうか？ギターのピックアップはハイ・インピーダンス設計になっています。インピーダンスは 300 K から 1 M で最高の結果を出すための理想と言われています。殆どのミキサー入力は比較的、ロー・インピーダンスになっている為、理想的なギターの音を再現することはできません。ギターを直接接続するとギターの音が潰れたようになってしまいます。このような音作りを避ける為に、DI ボックスや透明感のある楽器用プリアンプを使ってミキサーに入力する前にギター信号をバッファーすることを

お勧めします。(クリーンで音色の変わらないプリアンプが理想で、アンプシュミレーターは避けて下さい。ギタープリアンプはクリーンでフラットな周波数帯のレスポンスがあれば使うことができます)。

アクティブ・ピックアップを使っているギターの出力は比較的ロー・インピーダンスな為、ラインレベルのミキサー・チャンネルへダイレクトに接続することである程度良い結果を得ることができます。例えば、ギターを直接 Mackie1202VLZ に接続しトリムを上げ目一杯の時に、良い結果を得る事が出来る場合があります。低いインピーダンスのマイク入力にアクティブ回路を下げ過ぎてしまう為、アクティブ・ピックアップは、マイク・レベルのミキサーへ入力する事は避けてください。

Return To Sender : どのように外部機器をセンド/リターンへ接続するかを見てみます。センド/リターンは “ Changing History ” のセクションで説明した様にさまざまな柔軟性を提供します。

リバースを使用する場合 : まずリバースをお好みのキャラクターに設定します。そして POD でリバースがかかっていないトラックとかかっているトラックを比較するとします。ダイレクト出力がチャンネルごとにあるミキサーをお持ちでテープ/HD レコーダーを使用する場合、以下のようになります。



Return To Sender Illustration : POD をミキサーのセンド/リターンに接続する方法です。ギター入力を DI に差し込みます。そして DI をダイレクトアウトを持つミキサー・チャンネルへ入力します。トリム・チャンネルを設定し、入力レベルを適正值にしてください。録音トラックの入力へミキサー・チャンネルからダイレクトに出力を差し込み、レコーダーへの入力をモニターするトラックを設定します。レコーダーのトラック出力をもう 1 台のダイレクト出力の付いているミキサー・チャンネルの入力へ接続します。POD の入力へそのダイレクト出力を差し込み、ミキサーのステレオ・チャンネル入力の 1 つへ POD の出力を接続します。A.I.R.スイッチ が “ Direct ” に設定されている事を確認して下さい。ギターを弾いて、POD により処理された音を聞く準備が完了したので、レコーディングのトラックを決めます。その後、トラックを再生し、アンプとエフェクト等のスイッチを入れて下さい。もっと高度なテクニックで使いたい方は、後に記載されている MIDI Mania と全自動操作の設定に関して Deep Editing & MIDI Control のセクションを参照してください。注：音が悪くなる原因となる為、プリ POD とポスト POD を同時にモニターしないで下さい。

Level Headed : 上記の内容においてレベル設定を行う時は、POD に点灯するクリップ・インディケーター（ Bank Up/Down ボタンのすぐ下）を、気を付けて見ていて下さい。インディケーターは POD 入力クリッピングしている事を表示するので、送られてくる信号のレベルを下げる必要があります。POD へあまり低いレベル信号を送らないようにして下さい。どんなオーディオ機器を使用しても、それでは良い音になりません。

Radiation Alert : シングルコイルのギターを使用している場合、コンピューターのモニターからのノイズを簡単に拾います。CRT のディスプレイは特殊な放射線を放出しているので、ギターのピックアップは放出する電磁波を受信し、増幅します。そして、これらはバズやハムノイズとしてオーディオ信号から聞こえてきます。CRT から離れ、ギターを画面から離し、コンピューターとのディスプレイに直接向き合わなければ、その問題は最小限に抑えることができます。しかし、狭いスタジオでは、バズノイズを含む CRT に悩まされながら素早くトラックを行う必要があります。以上を防ぐ為には、録音するトラックを設定し、プリロールをスタートし、モニターのスイッチをオフにします。そしてギターの音を録音します。レコーディングが終了したら、モニターのスイッチを入れ、バズノイズの無い再生音を確認します。

Pedal Power : POD のフットコントローラーのオプションには、FLOOR BOARD と FB4 があります。FB4 には 4 つの POD チャンネルとタップテンポ・コントロールを選択する 4 つのフット・スイッチが付いています。POD のチャンネルにプログラムされた音の選択は足元で簡単に行えます。ワウペダル、ボリュームペダル等のオン/オフ・コントロールも行うことができます。どちらのフットコントローラーを選択しても、 Pedal ジャックに接続してください。通常使用する、MIDI コントローラー用ペダルでもコントロールすることはできます。

Not So Big Time Connections (コンピューターと MTR)

4トラック又は、それ以上のトラック・レコーダーや“ネイティブ”のコンピューター・オーディオ・システムでも、 SEND/リターンを作動させることは可能です。（ギターと他の楽器をミックスしたい場合、理想としては、コンピューターシステムに2つ以上のアウトとインのチャンネルがあれば良いでしょう）。

Computer User：コンピューターの入力へギターを接続します。（最適な信号レベルを得るにはDIを使用することをお勧めします）。A.I.R.スイッチ が“Direct”に設定されているか確認して下さい。PODにコンピューター出力から接続し、ギター信号がコンピューターから出力され、演奏しながらPODの奏でる素晴らしいアンプトーンの出力を聞くことができます。PODの入力がオーバードライブしないようCLIPライト を必ず確認して下さい。

Multi-trackers：マルチトラック入力へギターを接続します。（信号レベルの適正值を得るにはDIを使用して下さい）。A.I.R.スイッチ が“Direct”に設定されているか確認して下さい。マルチトラックのトラックから出力を、PODへ送ります。PODへ送られる出力レベルを調節すればCLIPライト は点灯しません。マルチトラックを使ってPODをモニターするには、録音されたギター信号はテープやディスクから聞かないままPODへ送られなければなりません。そうしないと、ギター処理とダイレクト両方を同時に聞く事になり、実音とは若干ことになってくる場合があります。1つ又は、それ以上のチャンネルからダイレクト出力のあるマルチトラックが、プリフェーダー・エフェクトのSENDが必要になります。（入力信号がPODに対してエフェクト・SEND経由で送られている時に、トラック用のモニターレベル全部下まで下げることができます）。

Stomp Boxes（コンパクトエフェクター）

もし既にコンパクトエフェクターをお持ちならば問題無くPODと共有できます。ギターとDIボックス（使用していれば）の間にそのエフェクターを置くか、ギターとミキサー入力（DI無しで信号を送っている場合）の間に置いて下さい。フットエフェクターがミキサー・チャンネルやDIをオーバードライブしていないか確認して下さい。そして、踏んだ時にDIを通る信号がミキサーの入力をオーバードライブしないように気を付けてください。PODの前後にフットエフェクターを置く事もできます。使っているほかの機器と作ろうとしている音にもよりますが、設置場所の制限は特にありません。レベルを設定している時は、ギターを弾く際の最大音量で音をだし、最も音圧の高いピックアップのコンビネーション、そしてコンパクトエフェクトを最大のボリューム・ブーストにして下さい。そして、最終的に大きな音の信号も連続チェーンをきれいに通る様にします。

MIDI MANIA

PODはMIDI経由ですべてをコントロールする事が出来ます。上記で説明したSEND/リターンを使うとPODをパワーアップすることが出来ます。MIDIを使用する事によって、PODのパラメーターを自動的に操作する事が出来ます。例えば、レコーディング・トラックをスタートさせます。（ギターは直接MTRへ、PODのMIDI出力のレコーディングはMIDIシーケンサーへ行

きます)。そしてトラッキングしながらフロントパネル又はフットコントローラーで POD のメモリーを変更したり、リバーブを上げ、トーンのノブを回したり、アンプを他へ変更したりする事が出来ます。レコーディングを停止し、シーケンサーからの MIDI 信号を POD で再生すると、POD はレコーディング時と同じ動作をします。録音可能な MIDI トラックとギタートラックだけを再生する事もできます。POD のノブとボタン、フットコントローラーで必要な機能の自動操作を行えます。また MIDI メッセージをエディットしたり、他の POD の応用も可能です。詳細は Deep Editing & MIDI Control を参照して下さい。

III. Scenario Two (ライブでの使用)

ライブにおいて POD をギターアンプ用 “フロントエンド” 又は、サウンドシステムへのダイレクト出力する際は、以下を参照して下さい。

Mount Up (仕込み) : ライブ演奏の時に、ステージの身近な所に POD を設置する場合の 1 番簡単な設置方法は、POD のオプションのマイクスタンド、アンプトップ、デスクアダプターを使用します。これらは持ち運びにも大変便利です。

Gimme Some A.I.R. : POD をライブ使用する際、設定方法に 2 種類の選択があります。POD の出力を直接外部機器へ入力するか、若しくはギターアンプとギターの間に接続します。こうする事によってアンプのフロントエンドのトーン・シェーピングとして動作させる事が出来ます。PA やその他のサウンドシステムへ接続する場合、A.I.R. スイッチを “Direct” にします。このモードにおいて、A.I.R. DSP はアクティブになり、スピーカー・キャビネット・エアー・マイクロフォンを再現する事ができます。この設定はとても素晴らしい為、ステージに通常使用するギターアンプやマイクの設定がもはや過去のものになってしまうかもしれません。POD 1/4 TRS 出力は +4dBu のバランスと -10dBV のアンバランスの両方に対応しています。最高のパフォーマンスを得るには質の良いケーブルをお使い頂くことをお勧めします。

POD Take Over : ギターアンプの直前に使用する場合、A.I.R. スイッチが “Amp” になっているか確認して下さい。(その他の設定になっていると音が悪くなります)。マイク用の各種スピーカー・シュミレーション機能のデジタル信号の一部が解除されます。その際、ヘッドフォンを接続しないようにして下さい。左側の出力(モノラル出力)からギターアンプの入力へ標準ギターケーブルを接続してください。

POD Output Level : A Word of Caution : POD の Output Level コントロールはどんな機器にも対応できるゲインを持っている為、ギターアンプの入力をオーバードライブする十分な力も備えています。その特性は歪みの原因にもなる為、POD の持つ本来の音を聴くことが出来なくなります。その為、出力レベルは最初かなり低めに設定しその後、高い設定で再生します。

Tuning Your Amplifier : ギターアンプとして POD を使用するのがとても標準的な使い方です。アンプに 1 つしかボリューム・コントロールがない場合、“クリーン” な音を維持する為に

ボリュームを低く設定します。入力のボリューム・コントロールに加えマスター・ボリュームがある場合、最初のボリュームがマスター・ボリュームをオーバーライドしないように設定する事によりクリーンな音を得ることができます。（アンプによって設定値が変わります）。しかし通常、入力ボリュームはマスター・ボリュームよりも低くして、クリーンな歪みの少ない方にします。パッシブ・トーン・コントロールがある場合、ミッド・コントロールを最大に設定し、トレブルとベース・コントロールを0にします。アクティブ・トーン・コントロールの場合、アンプのオーバードライビングには気を付けて下さい。POD の出力レベルを確認して、アンプの入力がオーバードライビングされない様にして下さい。A.I.R.スイッチは Amp に設定して下さい。

パワーアンプの入力へ直接接続するジャックやエフェクト・リターンの付いているギターアンプがある場合、POD の出力をそれらに直接接続して、アンプのトーン・コントロールをバイパスしてアンプが音色を変えることを防ぎます。

Stomp Boxes、Live Setups、& You：外部エフェクター等を使用する場合、どの位置に置くか考える必要があります。ワウやディストーションは POD とギターの間に置きます。リバーブとディレイは通常 POD の後に置きます。コンプレッサー、コーラス、フランジャー、フェイズ、トレモロ、ビブラート等は POD の前後どちらにでも置くことができます。ボリュームペダルを POD の後に設置すると POD はトーンを変えずにボリュームをコントロールすることが出来ます。また POD の前にボリュームペダルを置くことにより、POD への入力ドライブをコントロールしてクリーンな音から歪んだ音までペダルで調節出来ます。アンプにラインレベルのエフェクト・ループがある場合、エフェクトセンドから入力へは接続しないようにして下さい。POD の入力はギターレベル用にデザインされています。（上記で述べたように、リターンだけを使用することができます）。

Pedal Power：POD にはオプションのフットコントローラーで Floor Board と FB4 があります。詳しくはこの後の章で説明したいと思います。FB4 は4つのメモリーをフットスイッチで切り替えることができ、タップ・テンポをコントロールします。Floor Board は POD のチャンネルに有るあらゆるサウンド・プログラムをコントロール出来るだけでなく、ワウペダル、ボリューム・コントロール、ストンプボックス型のオン/オフコントロールを行うことができます。どちらのフットコントローラーを選択しても ペダルジャックへ接続します。標準 MIDI コントロール・ペダルで POD をコントロールすることもできます。

POD Effects

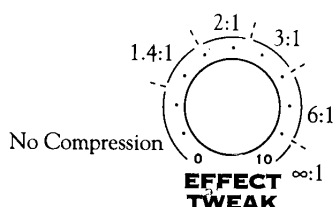
Deep Editing：Emagic 社製の SoundDiver、MIDI エディター/ライブラリアン・プログラムが付属されています。このプログラムは Macintosh と Windows コンピュータの両方に対応しています。そして POD のコマンド・ステーションでコンピューターを読み取ります。“リモート・コントロール”によって POD のフロントパネルで行われている作業のすべてを完了することができます。保存、サウンド選択等の機能と、アンプモデルやエフェクト・パラメーターへのアクセス機能なども搭載しています。詳細については Deep Editing & MIDI Control を参照して下さい

い。エフェクトの章にある基本的な操作手順を読み終えたら、POD の MIDI コネクションに関する説明もお読み下さい。

POD Onboard Effects : Amp Models 機能に加え素晴らしいサウンドエフェクト機能も内蔵されています。どのエフェクトにするかは エフェクト・ノブで選択して下さい。エフェクトを選択すると、POD はエフェクトのパラメーターをあらかじめ調節し、瞬時に素晴らしいサウンドを出すことができます。選択したエフェクトの特性は、 タップテンポ・コントロールをおして調節し、そして Effect Tweak ノブを回します。

Reverbs : POD には 2 種類のリバーブ機能でスプリング・リバーブのチューブトーン・モデルと標準のデジタルルーム・リバーブ・トーンが付いています。どちらを使用するかは、選択するアンプモデルによって決めて下さい。通常は、スプリング・リバーブが良いと思います。リバーブ機能がない Brit Classic モデルの 1968 Marshall “Plexi” 等の場合、ルームリバーブ・トーンを使います。詳細は Amp Models Appendix を参照して下さい。

Compressor : コンプレッサーは音をスクイーズする際、柔らかい音は大きくなり大きな音は大きくなり過ぎない様にします。この機能は演奏する音を揃える際とても便利です。そして本体のレベルを上げることができます。そして増幅した音を一定に保ちます。コンプレッションは殆どの場合 2:1 か 5:1 のレシオで表されます。Tweak ノブはコンプレッション・レシオを調節します。設定には 1.4:1、2:1、3:1、6:1、 ∞ :1 の 5 種類があります。(∞ のマークは無限大を表します。Effect Tweak を最大に設定すると、リミッターを使うのと同じような無限のコンプレッションを得ることができます)。



コンプレッションはプリ・ディストーションの際コンプレッサー・ペダルを使うのと同じようになります。

Tremolo : Tweak ノブは音の深さをコントロールし、Tap Tempo コントロールは音の速度調節を行います。トレモロのスピードはタップの 2 倍の速さに設定されている為(タップテンポのライトが点滅する速さの 2 倍になります)。必至にタップしなくとも速いトレモロを設定することができます。

Chorus : POD には 2 種類のコーラスサウンドがあります。コーラス 1 は四角い波形に周波数帯を変更する為、“ロックマウント・エフェクト”のような音になります。コーラス 2 は、より多くのフィードバックがあるサイン・ウエーブ正弦波に変更する為、ムーブメントの多い豊富な

ハーモニックスになります。コーラス 2 は昔の Roland CE-1 のようなクラシックな音色に近い音をだします。Tweak ノブは音の深さを調節し、タップテンポは音の速度を調節します。ゆっくりとしたコーラスにしたい時は、タップを遅くして下さい。タップの間は約 6 か 7 くらいにします。遅すぎると感じたら、タップテンポ・スイッチをホールドし、Effect Tweak ノブを回してタップテンポを変更することができます。

Flanger：フランジャーは 70 年代のレコーディングで知られている“ジェット機”の音に似ています。本来、エフェクトは余り使われず、殆どの場合エンジニアはテープ・リールの一部に指でプレッシャーを与えながらほんの少し速度を上げたり下げたりしてエフェクトをかけていた為、あまり使われませんでした。指で押しているテープ・リールの一部をフランジャーと言うところからこの名前はきています。電氣的にエフェクトをかける事が出来るようになってからはとても良く使われる様になりました。POD には 2 種類のフランジャー機能が付いています。両方とも昔の ADA

をいつも使うことができます。Floor Board の Delay On/Off スイッチでオンして下さい。また Emagic 社の SoundDiver ソフトウェアか MIDI コントローラーを使ってもコントロール出来ます。（Appendix D の MIDI コントローラーを参照して下さい）

Noise Gate：POD はノイズゲートが内蔵されています。特に高いゲイン設定（ゲインが高いということはギターの音に沿ってノイズが上がる事を意味しています）の時や、プレイしている時に耳障りなヒスノイズやギターシステムのノイズを取り除くことが出来ます。 のボタンが点くとノイズゲートはオンになります。ノイズゲートを止めたい場合は、もう一度ボタンを押すとライトが消えノイズゲートがオフになります。再度オンにすると、ゲート機能でどのくらいヒス音が消えたか分かります。

Combined Effects：残りのエフェクト機能はディレイと他のエフェクトのコンビネーションになります。タップテンポ・コントロールはディレイのスピードを調節します。**Delay Repeats(Tap+Bass Knob)**ディレイのリピート回数の設定、及び**Delay Level(Tap+Middle Knob)**ディレイレベルの設定はここでも使用できます。

Delay/Compressor：Tweak はコンプレッション・レシオを調節します。

Delay/Tremolo：Tap Tempo はトレモロ・スピードの設定を調節します。Tweak はディレイレベルを調節します。ディレイ変化は 100msec です。

Delay/Chorus 1：Tweak は Chorus のセッティングを調節します。

Delay/Chorus 2：Tweak は Chorus のセッティングを調節します。

Delay/Flanger 1：Tweak は Flanger のセッティングを調節します。

Delay/ Flanger 2：Tweak は Flanger のセッティングを調節します。

Delay/Swell：Swell は自動操作のボリュームペダルに似ていて、プレイされるそれぞれの短音やコードのボリュームを徐々に大きくします。Effect Tweak はボリューム増加のアタックスピードを調節します。勿論、POD のフロアボードを使って似たようなエフェクトを再現する事もできます。又は、MIDI ペダルや他のコントローラーを使うこともできます。

Creating & Storing

Using the Manual Mode Features：マニュアルモードで使用する際には、全ての調節機能がアクティブになり、POD の音はノブの設定をそのまま反映します。マニュアルモードがオンになると、 マニュアルボタンが点灯します。ノブを回して好きな音を探し、巻末のシートに書き留めて本体に保存します。

Using the Channel Program Memories：お気に入りの音を 36 チャンネルのメモリーの好きなところへ簡単に保存することができます。SAVE ボタン 21 を押してアップ/ダウン ボタンを押して POD の 9 桁のバンク内 A、B、C、D のメモリー・ロケーションの中から保存先を選択します。保存されている音の 1 つを選びセーブボタンを再度押すと、ライトの点滅が止まり選択

した保存先に保存されます。前に保存されたものは上書きされます。サウンドが保存された後は、アップ/ダウンのボタンを押して保存先を呼び出して音を再生します。

注：全てのライトが点滅し始めた後、作業を中止したい場合はタップテンポ、マニュアル、チューナー、ノイズゲート、MIDI ボタンの何れかを押すとセーブモードを解除できます。（またセーブモードを押した後に 5 秒間どのボタンも押さなければ保存は解除されます）。

Swapping POD Channels with Friends：例えば、素晴らしい音を作りそれをチャンネル A のバンク 1 に保存します。曲を作るにはこの音を使わなければなりません。しかしサウンド・プログラマーのシートをコピーするのを忘れてしまい、どこにも書き留めなかったとします。このような場合、セーブボタンをホールドしながら POD のノブのどれか 1 つを回して下さい。（この時アウトプット・レベルのノブは押さないで下さい。これはプログラムへ保存されません）。セーブボタンを押しても設定が変わったり、セーブモードへ行く心配はありません。その代わりに、チューナーボタンの下の矢印が点灯します。矢印はノブを回す方向を指示しており、その方向に廻すと保存されているコントロール設定になります。ノブの位置が保存設定とぴったり合うと、両方のライトが点灯します。この作業を全てのノブで終え、タップテンポのスピードも書き留めておけば、同じ設定を他の POD で再現する事もできます。すべて正しく行われているか確認するため、ノブが設定された後にマニュアルモードへ転換し、音が変わっているか聞くこともできます。

わかりにくいようでしたら MIDI ケーブルを使って第 8 章の Deep Editing & MIDI Control を参照し、転送することも出来ます。またコンピューターで音を相互に転送する事も可能です。Macintosh と Windows の両方に Emagic 社の SoundDiver ソフトウェアは対応しています。POD の Tools CD を使うこともできます。

Edit Mode：プログラムされている音にベースの音をもう少し加える事も簡単に出来ます。アップ/ダウンボタンでメモリーからの音を呼び出し、ベースノブを回して自動的にエディットモードに入ります。すると“Edited”の文字が点灯し、保存されたチャンネルのメモリーに変更を加えたことを知らせます。そしてSAVE ボタンを使って保存します。このように保存されたチャンネルを編集する機能をエディット・モードと言います。編集を行うには、セーブボタンを押してライトが点滅したら再度セーブボタンを押します。すると音は現在選択しているメモリーに保存されます。保存先を変更したい場合には、SAVE の文字が点滅したらアップ/ダウンボタンを押して保存先を選択します。

編集した音を保存しない場合は、SAVE ボタンは無視して下さい。SAVE ボタンを押した後に保存をキャンセルする場合は、タップテンポ、マニュアル、チューナー、ノイズゲート、MIDI ボタンの何れかを押して保存の作業を中止します。編集を保存する前にチャンネルを変更してしまった場合は、変更は消去されます。

The Preset Rest Button：POD のチャンネルを工場出荷時の状態にリセットする必要が

有る場合は、アップ/ダウン・ボタンを押したまま電源を立ち上げて下さい。POD のメモリーは消去され、全てがリセットされます。

注：これは全てのカスタム・サウンドを消去する為、充分に考えた上で作業を行って下さい。

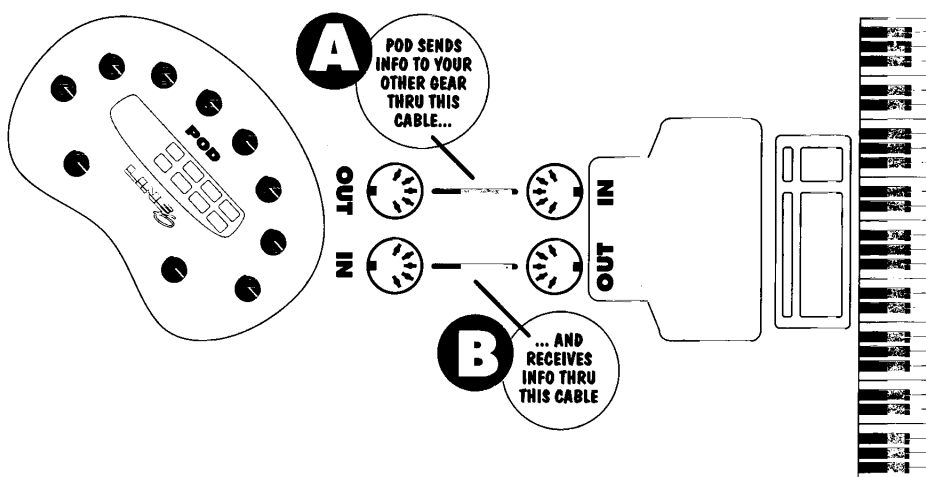
Deep Editing & MIDI Control

MIDI Basics

What's MIDI?：MIDI（楽器用デジタル・インターフェース）は楽器間のインフォメーションを交換するコミュニケーション・プロトコルのデザインです。MIDI により他の機器をコントロールしたり、複数台の機器を一緒に連結して使用することができます。

In/Out

POD には2つの MIDI 端子が付いています：In/Out。MIDI ケーブルを使って MIDI 機器と POD を接続します。それぞれの接続は一方通行になっています：情報は1台の機器のアウトからもう1台の機器のインへ送られます。また受信することも出来ますが、その場合は、もう1本ケーブルを接続してインからアウトに接続します。



MIDI Channel

MIDI は1本の MIDI ケーブルを通して異なる 16 チャンネルの情報を送受信します。MIDI ケーブルのチャンネルはプログラムが保存されている POD のチャンネルとは異なります。

POD を（テレビのチャンネルを選ぶように）特定の MIDI チャンネルに合わせた際、MIDI 機器もその MIDI チャンネルに合わせて同じチャンネルに送信することが可能です。POD の MIDI チャンネルを MIDI ボタンを押して設定します。ボタンが点灯して表示されている1桁の数字は POD の現在のチャンネルを表します。16 の MIDI チャンネルの中から違うチャンネルを選択する場合は、アップ/ダウンの矢印を使って下さい。POD はチャンネルの数が2桁（10～16）になると1桁の数字の右に点を表示します。ですから“2”と表示されたら12チャンネルを意味します。

MIDI チャンネルを A に選択する事で全てのチャンネル（オムニモード）を聞く POD を設定する事もできます。オムニモードを使用している時、POD はチャンネル 1 で送信します。

MIDI Messages

MIDI はいくつかの異なるメッセージを異なる目的に合わせて送ることができます。

MIDI Program Changes：プログラム変更のメッセージは設定や音色の変更を機器に送ります。POD において、プログラム変更はチャンネルから他のチャンネルへの変更を意味し、POD が 1 と変更番号を受けると、バンク 1 のチャンネル A を選択します。2 の変更番号はバンク 1 のチャンネル B となります。詳細は Appendix C を参照して下さい。

MIDI Controllers：MIDI コントローラーのメッセージはリアルタイムで外部機器のパラメーターをコントロールする事ができます。例えば、MIDI コントローラーを使用して POD Drive コントロールの設定を変えたり、リバース・レベルを変更したりすることができます。それぞれの POD のパラメーターは MIDI コントローラーへマッピングされる為、POD の全てのコントロールを行う事ができます。Appendix D に POD のパラメーターとコントローラーに関する詳細が記載されています。Floor Board のワウとボリューム・ペダルも MIDI 経由で MIDI コントローラーのメッセージを送信します。MIDI 経由でパラメーターのコントロールを変更する際に、ノイズを最小限に押さえる為に POD のセッティングをゆっくりと変えるようにして下さい。

MIDI Sysex Commands：システム・エクスクルーシブ・メッセージとは機器固有の特殊なメッセージを意味します。Sysex は他の機器のメモリーにプログラムされたサウンドを送信したり、機器から新しいサウンドを受け取ります。このデータの交換は“ダンプ”と言われ、POD Tools CD に入っている Emagic 社 SoundDiver ソフトウェアの Sysex コマンドを使っています。POD のプログラムをバックアップと編集の為にダンプしたり、コンピューターから POD へプログラムを送信します。また 2 つの POD が Sysex 経由で直接データを交換するもできます。その際は MIDI ケーブルを使用して下さい。詳細に関しては以下を参照して下さい。

Emagic 社 SoundDiver Software

Emagic 社 SoundDiver にはエディター/ライブラリアン・プログラムが含まれています。SoundDiver はコンピューターに POD のサウンドを保存して、スクリーン上で POD のサウンドを編集します。CD にはインストールの方法とエレクトロニック・ユーザー・ガイドが付いていて、その中には Emagic 社のテクニカル・サポート・サービスに関する案内も含まれています。SoundDiver を使うにはコンピューターに MIDI インターフェースを付ける必要があります。同様に、ソフトウェアのラインと音楽録音用のハードウェアも必要になります。

POD-TO-POD Sound Transfers Via MIDI

POD から直接サウンドを転送したい場合は、以下の手順に従って設定を行って下さい。この時

は標準 MIDI ケーブル使用して下さい。

受信側の POD の MIDI インを送信側の POD の MIDI アウトへ接続して下さい。2 台の POD の MIDI ボタンを押して、どの MIDI チャンネルに設定されたかを確認します。アップ/ダウンボタンを使ってそれらを同じチャンネルに設定して下さい。

Transferring All Sounds : 送信側のサウンドを全て受信側にコピーしたい場合は、MIDI ボタンが点灯しているのを確認して、セーブボタンを押して下さい。表示される 1 桁の番号のところが “A” となります。A は MIDI 経由で全てのサウンドを送ることを意味しています。そして、セーブボタンが点滅し、送信する場合は再度セーブボタンを押すことを確認されます。セーブボタンを再度押すと送信側の全てのメモリーは受信側へダンプされます。送信側のボタンのどれかを押すと、転送を解除します。

Transferring Only Some Sound : 1 つ又は特定のサウンドを POD から転送する場合の手順は以下のようになります。POD を通常のオペレーション・モード(この時 MIDI ボタンは点灯しません)にして、転送するサウンドを選択して下さい。この際に編集を行うこともできます。POD はアクティブにした設定全てを転送します。その為、好きなサウンドを選択したら、MIDI ボタンを押して下さい。そして、SAVE を押します。次に “A” から “1” に変更を行う為にアップボタンを使います。これは全部ではなく 1 つのサウンドを POD の受信側へ転送する事を意味します。転送する為に SAVE ボタンをもう 1 度押して下さい。中止する場合は、その他のボタンを押して下さい。最後に、POD の受信側は EDITED ライトが点灯します。この状態でまだ保存はされません。保存先を選択し、受信側の SAVE ボタンを押します。SAVE ボタンをもう 1 度押すと転送するサウンドの受信側が再確認されて実行されます。そして、受信側へ保存します。

Backing Up POD Programs To Other Devices : POD へプログラムされたサウンドをバックアップする事で、何か起こった場合でもサウンドを失う心配がなくなります。バックアップ用に POD から他の MIDI 機器へサウンドを転送したい場合は、POD から POD への転送手順と同じ方法で行って下さい。その際に、MIDI ケーブルが必要になります。

POD の MIDI アウトを受信側の MIDI 機器の MIDI インへ接続します。MIDI ボタンを押してどの MIDI チャンネルが設定されているか確認して下さい。アップ/ダウンのボタンを使って受信側の MIDI 機器と同じチャンネルを設定します。または MIDI 機器の変更を行い MIDI チャンネルに合わせます。受信側と送信側のチャンネルが同じであれば問題はありません。

Transferring All Sounds : POD から MIDI レコーダーへプログラムされたサウンドをダンプする時は、MIDI ボタンが点灯しているかを確認して下さい。そして、SAVE ボタンを押します。表示される 1 桁の番号のところが “A” となります。A は MIDI 経由で全てのサウンドを送ることを意味しています。そして、SAVE ボタンが点滅し、“送信する場合はもう一度セーブボタンを押す” ことを確認されます。再度 SAVE ボタンを押すと送信側の全てのメモリーは受信

側へダンプされます。送信側のボタンどれかを押すと、転送を中止します。

Transferring Only Some Sound : 1 つ又は複数の各サウンドを POD から転送する場合の手順は以下のようになります。POD を通常のオペレーション・モード(この時 MIDI ボタンは点灯しません)にして、転送するサウンドを選択して下さい。この時点で編集を行うこともできます。POD はアクティブにした設定全てを転送します。その為、好きなサウンドを 1 度選択したら、MIDI ボタンを押して下さい。そして、SAVE を押します。“A” から “1” に変更を行う場合は UP ボタンを使います。これは全部でなく 1 つのサウンドを POD の受信側へ転送する事を意味します。転送する為に SAVE ボタンをもう 1 度押して下さい。キャンセルする場合は、その他のボタンを押して下さい。そして、MIDI レコーダーの STOP を押します。もう 1 つ信号を送りたい場合には、MIDI ボタンを押して、SAVE、UP ボタンを押します。レコーダーが受信出来る様に設定して下さい。SAVE を押してダンプを実行します。そして MIDI レコーダーの STO を押します。

Changing POD Channels With MIDI Program Changes :

MIDI 経由で行う基本的な事はチャンネル変更です。MIDI プログラムの変更メッセージを送る他の機器やフットコントローラーを使って変更を行うこともできます。MIDI アウトを POD の MIDI インに接続して、両方の機器の MIDI チャンネルが同じになるように設定します。そして、プログラム番号や選択チャンネルについての詳細は Appendix C を参照して下さい。マニュアル・モードとチューナーは MIDI プログラムのメッセージで選択することができます。MIDI プログラム変更のメッセージを MIDI シーケンサーから POD へ送信そして、シーケンサーの同期信号で自動的にサウンドを変える事も可能です。MIDI 経由でパラメーターのコントロールを変更する際に、ノイズを最小限にする為に POD の設定はゆっくりと変更してください。

Tweaking POD Tones with MIDI Controllers :

MIDI フェーダーボックス付 MIDI コントローラー、及び MIDI シーケンサーをお持ちでしたら、全てのパラメーターを MIDI によってコントロールすることができます。詳細に関しては Appendix D を参照して下さい。

Exchanging POD Sounds : 音を送受信する為に MIDI ケーブルが必要になります。詳細に関しては第 6 章の “Exchanging Sounds with MIDI” を参照して下さい。

Full MIDI Automation of POD : MIDI シーケンサーで POD を使う時は、MIDI コントローラーのメッセージを使ってパラメーターを自動操作する事ができます。これにより Por Tools TDM システムを使わずにプラグインソフトウェアやアンプファームのようにパラメーターを自動制御する事ができます。

POD のフロントパネルのノブは適切な MIDI コントローラーの情報を送ります。(オプションの FLOOR BOARD フット・コントローラーのワウとボリュームペダルで行うのに似ています)

MIDI シーケンサーに沿って POD を通り MIDI トラックへ録音することができます。第 3 章の Return to Sender を参照して下さい。

シーケンサー設定で POD の MIDI アウトを MIDI インへ接続します。シーケンサーの MIDI アウトを POD の MIDI インへ接続します。POD とシーケンサーは同じ MIDI チャンネルに設定されているか確認して下さい。

MIDI コントローラーの自動操作をする為に、シーケンサーに MIDI トラックを設定して、POD の MIDI アウトから送られる信号を録音します。そして、POD の MIDI 出力を受ける MIDI トラックを設定し、シーケンサーの録音を始めます。POD のドライブノブをゆっくりと 1 番上まで上げて、その後シーケンサーの録音を行いながら 1 番下まで下げます。シーケンサーで POD の MIDI トラックに録音されたデータを調べて下さい。MIDI コントローラーの #13 メッセージが録音されたの確認できます。これは POD のドライブ・パラメーターへアサインされたコントローラーです。POD を使って演奏しながら録音された MIDI トラックを再生します。(又は POD を通り録音されたダイレクトのギター信号を再生します)。すると MIDI トラックへ録音したドライブの変更を聞く事ができます。

フロントパネルのコントロールからアクセスできない POD のパラメーター自動操作は、(例：リバーブトーン)。MIDI コントローラーのハードウェア又は、オンスクリーン・フェーダー若しくは他のコントローラーを搭載にコンピューターのシーケンス・ソフトをご利用下さい。MIDI 経由でパラメーターのコントロールを変更する際に、ノイズを最大限にするために POD の設定はゆっくりと変更して下さい。

APPENDIX A: AMP MODELS

Please note that Fender, Marshall, Vox, Boogie, Soldano, Roland, Matchless, Arbiter, and other amplifier model designations, and effects, are all trademarks of their respective owners, which are in no way associated or affiliated with Line 6. These marks and names are used solely for the purpose of describing certain amplifier tones produced using Line 6's TubeTone modeling technology. The TubeTone modeling technology provides POD with a wide variety of sounds and effects modeled after some of the most popular sounds of the classic amps and effects mentioned here.

Amp Model Name	Based On	Volume Pedal Position	Reverb
Tube Preamp	Tube Instrument Preamp	Post	Room
POD Clean	Line 6 21st Century Clean	Pre	Room
POD Crunch	Line 6 Thick Grindage	Pre	Spring
POD Drive	Line 6 Industrial Strength OD	Post	Room
POD Layer	Line 6 Clean meets Psychotic Drive	Post	Room
Small Tweed	'52 Fender Deluxe	Pre	Room
Tweed Blues	'59 Fender Bassman	Pre	Spring
Black Panel	'65 Fender Deluxe	Pre	Spring
Modern Class A	'96 Matchless Chieftain	Pre	Spring
Brit Class A	'63 Vox AC 30 with Top Boost	Pre	Room
Brit Blues	'65 Marshall JTM-45	Pre	Room
Brit Classic	'68 Marshall Plexi 50 watt	Pre	Room
Brit Hi Gain	'90 Marshall JCM-800	Post	Room
Rectified	'94 Mesa Boogie Dual Rectifier Tremoverb Combo	Post	Room
Modern Hi Gain	'89 Soldano SLO	Post	Room
Fuzz Box	'60's Dallas Arbiter Fuzz Face	Post	Room
Jazz Clean	'87 Roland JC-120	Pre	Spring
Boutique #1	Dumble Overdrive Special Clean Channel	Pre	Room
Boutique #2	Dumble Overdrive Special Drive Channel	Post	Room
Brit Class A #2	'60 Vox AC 30 non-Top Boost	Pre	Room
Brit Class A #3	'60 Vox AC 15	Pre	Room
Small Tweed #2	'60 Tweed Fender Champ	Pre	Room
Black Panel #2	'65 Blackface Fender Twin	Pre	Spring
Boutique #3	Budda Twinmaster head	Pre	Room
California Crunch #1	'85 Mesa Boogie Mark IIc+ Clean Channel	Pre	Spring
California Crunch #2	'85 Mesa Boogie Mark IIc+ Drive Channel	Post	Spring
Rectified #2	'95 Mesa Boogie Dual Rectifier Head	Post	Room
Modern Hi Gain #2	'89 Soldano SLO Super Lead Overdrive	Post	Room

APPENDIX B: EFFECT PARAMETERS

Effect	Tap	Tweak	Notes
Bypass	n/a	n/a	Turns off the effects.
Compressor	n/a	Ratio	There are 5 Compressor ratios: 1.4:1, 2:1, 3:1, 6:1, and ∞ :1. Higher settings "squeeze" your volume more.
Tremolo	Tremolo Speed	Depth	The tremolo was designed with the characteristic Fender tremolo shape.
Chorus 1	Chorus Speed	Depth	Square wave LFO, "rack" type chorus setup; subtler than Chorus 2.
Chorus 2	Chorus Speed	Depth	Sine wave LFO, approximately 10% feedback; emulates an old Roland CE-1 for classic stomp box-type sound.
Flanger 1	Flanger Speed	Feedback	Light flange.
Flanger 2	Flanger Speed	Feedback	Heavier flange; inverted, and with deeper range.
Rotary Speaker	Rotary Speed	Depth	This emulates a classic spinning speaker, a la the Leslie.
Delay	Delay Length	Delay Level	Very quick delays will have no repeats for better slapback.
Delay/Compressor	Delay Speed	Compression Ratio	There are 5 Compressor ratios: 1.4:1, 2:1, 3:1, 6:1, and ∞ :1. Higher settings "squeeze" your volume more.
Delay/Tremolo	Tremolo Speed	Delay Level	The delay speed is set for a short slapback (100 ms).
Delay/Chorus 1	Delay Speed	Delay Level	Chorus 1 uses a Square wave LFO, no feedback. This is the "rack" type chorus setup.
Delay/Chorus 2	Delay Speed	Delay Level	Chorus 2 uses a Sine wave LFO, approximately 10% feedback. This emulates an old Roland CE-1 for classic stomp box chorus sound.
Delay/Flanger 1	Delay Speed	Delay Level	Light flange.
Delay/Flanger 2	Delay Speed	Delay Level	Heavier flange; inverted, and with deeper range.
Delay/Swell	Delay Speed	Swell Attack Speed	Automatic volume pedal swells... Swell is a slow ramp-up, or swell of volume when you play each note.

APPENDIX C: MIDI PROGRAM CHANGES

POD channels can be selected via MIDI program changes. Some devices number programs starting at zero. Some start at one. We start at zero (Manual Mode) and then work our way along through the stored channels as shown in this table:

POD Channel	MIDI Program	POD Channel	MIDI Program
Bank 1		Bank 6	
Channel A	01	Channel A	21
Channel B	02	Channel B	22
Channel C	03	Channel C	23
Channel D	04	Channel D	24
Bank 2		Bank 7	
Channel A	05	Channel A	25
Channel B	06	Channel B	26
Channel C	07	Channel C	27
Channel D	08	Channel D	28
Bank 3		Bank 8	
Channel A	09	Channel A	29
Channel B	10	Channel B	30
Channel C	11	Channel C	31
Channel D	12	Channel D	32
Bank 4		Bank 9	
Channel A	13	Channel A	33
Channel B	14	Channel B	34
Channel C	15	Channel C	35
Channel D	16	Channel D	36
Bank 5			
Channel A	17	Manual Mode	00
Channel B	18	Tuner	37
Channel C	19		
Channel D	20		

APPENDIX D: MIDI CONTROLS (1 of 3 pages)

Sound Diver Parameters	Notes	Transmitted MIDI Range	Control #	Received MIDI Range
Amp Model	Selects Amp Model	0-15 transmitted from Amp Model knob	12	0 = Tube Preamp, 1-27 = Other Amp Models
Drive	-	0-127	13	0-127
Drive 2 (only if Amp Type = Layer)	-	NO TRANSMIT	20	0-127
Bass	-	0-127	14	0-127
Mid	-	0-127	15	0-127
Treble	-	0-127	16	0-127
Bright Switch	On/Off	Trans: Off=0/On=127	73	Rcv: 0-63=OFF, 64-127=ON
Presence	-	On/Off (Hold TAP, turn TREBLE)	21	0-127
Channel Volume	-	0-127	17	0-127
Noise Gate On/Off	On/Off	Trans: Off=0/On=127	22	Rcv: 0-63=OFF, 64-127=ON
Gate Threshold	-	NO TRANSMIT	23	0-127
Gate Decay	-	NO TRANSMIT	24	0-127
Effect Select Knob	0-15	0-15	19	0=Bypass, 1-15 other effects
Effect Tweak		0-127	1	0-127
Distortion On/Off	Adds Preset Amount of Drive	FB SWITCH ON=127 OFF=0 (Or hold POD TAP, turn DRIVE)	25	Rcv: 0-63=OFF, 64-127=ON
Drive/Boost	4dB Boost of Channel Volume	FB SWITCH ON=127 OFF=0 (Or hold POD TAP, turn CH.VOLUME)	26	Rcv: 0-63=OFF, 64-127=ON
EQ (presence Bump)	Sets Pres On/Off to Preset Levels	FB SWITCH ON=127 OFF=0 (Or hold POD TAP, turn TREBLE)	27	Rcv: 0-63=OFF, 64-127=ON

APPENDIX D: MIDI CONTROLS (2 of 3 pages)

Sound Diver Parameters	Notes	Transmitted MIDI Range	Control #	Received MIDI Range
Delay (always available)	On/Off	FB SWITCH ON=127	28	Rcv: 0-63=OFF, 64-127=ON
Delay Time	0-3140 mS, 128 equal steps	NO TRANSMIT	30	0-127
Double-precision control for Delay Time	with Delay Time, gives 14 bit precision	NO TRANSMIT	62	0-127
Delay Regeneration I	-	NO TRANSMIT	32	0-127
Delay Level I	-	NO TRANSMIT	34	0-127
Reverb (always available)	On/Off	FB SWITCH ON=127	36	Rcv: 0-63=OFF, 64-127=ON
Reverb Type	Spring/Hall	NO TRANSMIT	37	Rcv: 0-63=SPRING, 64-127=HALL
Reverb Decay	-	NO TRANSMIT	38	0-127
Reverb Tone	-	NO TRANSMIT	39	0-127
Reverb Diffusion	-	NO TRANSMIT	40	0-127
Reverb Density	-	NO TRANSMIT	41	0-127
Reverb Level	-	0-127	18	0-127
Compression Ratio	off, 1.4:1, 2:1, 3:1, 6:1, infinity:1	NO TRANSMIT	42	0-21=off, 22-44=1.4:1, 45-67=2:1, 68-90=3:1, 91-113=6:1, 114-127= infinity:1
Wah Wah Pedal On/Off	On/Off	FB SWITCH ON=127/ OFF=0	43	Rcv: 0-63=OFF, 64-127=ON
Wah Pedal	-	0-127	4	0-127
Wah Bottom Frequency	-	NO TRANSMIT	44	0-127
Wah Top Frequency	-	NO TRANSMIT	45	0-127
Volume Pedal	-	0-127	7	0-127
Volume Pedal Minimum	-	NO TRANSMIT	46	0-127
Volume Pedal Location	Pre Tube Drive / Post Tube Drive	NO TRANSMIT	47	Rcv: 0-63=BEFORE TUBE, 64-127=AFTER TUBE
Volume Swell On/Off	On/Off	NO TRANSMIT	48	Rcv: 0-63=OFF, 64-127=ON
Volume Swell Ramp Time	-	NO TRANSMIT	49	0-127
Tap Tempo	-	POD KEY OR FB SWITCH TRANSMITS 127	64	64-127= a Tap

APPENDIX D: MIDI CONTROLS (3 of 3 pages)

Sound Diver Parameters	Notes	Transmitted MIDI Range	Control #	Received MIDI Range
Chorus/Rotary/Tremolo On/Off	On/Off	FB SWITCH ON=127	50	Rcv: 0-63=OFF, 64-127=ON
Chorus/Flange Speed	-	NO TRANSMIT	51	0-127
Chorus/Flange Depth	-	NO TRANSMIT	52	0-127
Chorus/Flange Regen	-	NO TRANSMIT	53	0-63 negative, 64-127 positive
Chorus PreDelay (if type = Chorus)	-	NO TRANSMIT	54	0-127
Rotary Speed	Slow/Fast	NO TRANSMIT	55	0-127
Rotary Max Speed	-	NO TRANSMIT	56	0-127
Rotary Min Speed	-	NO TRANSMIT	57	0-127
Tremolo Speed	-	NO TRANSMIT	58	0-127
Tremolo Depth	-	NO TRANSMIT	59	0-127
Cabinet Type	Selects Cab Simulation	NO TRANSMIT	71	Selects Cab Simulation
A.I.R. Ambience Level	0-127	NO TRANSMIT	72	0-127

APPENDIX E: CABINET MODELS

Part of what makes POD sound so much like a real guitar amplifier and cabinet setup are the cabinet models that it uses. Whenever you select an Amp Model, POD automatically matches it up with an appropriate cabinet for you to play through. If you use the Emagic SoundDiver software to for deep editing of your POD's parameters, you can mix and match amp and cabinet models to create your own custom setups. There are sixteen cabinet flavors to choose from.

#	Model	Based On
1	1x8	'60 Fender Tweed Champ
2	1x12	'52 Fender Tweed Deluxe
3	1x12	'60 Vox AC15
4	1x12	'64 Fender Blackface Deluxe
5	1x12	'98 Line 6 Flextone
6	2x12	'65 Fender Blackface Twin
7	2x12	'67 VOX AC30
8	2x12	'95 Matchless Chieftain
9	2x12	'98 Pod custom 2x12
10	4x10	'59 Fender Bassman
11	4x10	'98 Pod custom 4x10 cab
12	4x12	'96 Marshall with V30s
13	4x12	'78 Marshall with 70s
14	4x12	'97 Marshall off axis
15	4x12	'98 Pod custom 4x12
16	No Cabinet	(you will probably want to use this Cabinet model with the Tube Preamp model for non-guitar sources. It is automatically selected by POD when you pull up the Tube Preamp Amp Model)

• SOUND DIVER For POD インストールマニュアル

MIDI ドライバーの設定

1. サウンドブラスターのようなカードはMIDI ドライバーを一つ以上持っています。通常は外部の MIDI ポートではなくシステムのカードに内蔵されているシンセのドライバーにデフォルトで設定されています。そのためドライバーが POD を認識する為には、正しいドライバーを選択しなければなりません。
2. MIDI ケーブルは入出力双方に接続されなければなりません。POD の出力からコンピュータの入力へ接続され、コンピュータの出力から同様にして POD の入力に接続されます。
3. MIDI チャンネルは同じ値に設定されなければなりません。最も簡単な接続方法は POD の MIDI チャンネルを全て「A」に設定することです（オムニモード）。

次に POD を認識するための基礎的なステップを説明します。

1. デバイスが見つからないという表示が出た場合、「MANUALLY」のボタンをクリックします。するとSUND DIVERのメモリーマネージャーに移行します。
2. メモリーマネージャー・ウィンドウの左側にパラメーターのリストを見ることができます。そこで「OUT PORT」が外部 MIDI 用ドライバーに設定されていることを確認して下さい。ドライバーの名前は各社で異なりますが、判りやすく選択できるようになっています。
3. 「DEVICE ID」が1に設定されていることを確認して下さい。
4. メモリーマネージャーの右側に「USER PROGRAMS」と表示されたタイトルバーがありますのでそれをクリックして下さい。すると現在空になっている36ヶのユーザー・プリセット・ロケーションをハイライトします。
5. メモリーマネージャーの一番左上のアイコンをクリックしてください。すると小さなキーボードの形をした矢印が表示され、小さな「？」マークが現れます。これは現在のプログラムをPODからリクエストしていることを表示します。この時点でパッチ名が埋められ、サウンドドライバーがPODを認識し始めます。

次に POD 内の音ライブラリーを構築します。以下の手順に従ってください。

1. 「USER PROGRAMS」エリアには全てのパッチ名が表示されているので、そこから「Build Library All Entries From The Entry Menu In The Memory Maneger Window」を選択します。これでリストにある全てのパッチと共にライブラリーのウインドウが開かれます。
2. ファイルメニューから「SAVE」を選びライブラリーを保存します。そしてファイル名をつけて下さい。
3. ライブラリーを作成した後、新しいパッチを保存することができます。（ライブラリーは36パッチ以上保存できます。実際はディスクスペースの容量分だけ保存できると考えてください。）方法は簡単で保存するパッチをユーザープログラム又はプログラム・エディット・バッファーからドラッグしてライブラリーにドロップします。これらのパッチはライブラリーからドラッグしてPODのどのロケーションにドロップすることもできます。



POD2

NEW FEATURES

バージョンアップ内容のご案内



株式会社サウンドハウス

Professional Sound Equipment

Specialist

〒286-0044 千葉県成田市不動ヶ岡1958

TEL:0476-22-9333 FAX:0476-22-9334

はじめに

この度は、LINE6 社製の POD2 をお買い上げ頂き、誠に有り難うございます。Version2 ソフトウェアは、既にご愛顧頂いている POD にユーザーの要望に答えて製品デザイン部が考え出した数多くの新機能や改良を加えることができます。

ご使用になる前にこの取り扱い説明書を必ずお読み下さい。

この説明書では機材に関して全詳細に触れていますが、まずは製品の概要から説明していく事にしましょう。

ここでは既存のサウンドを SOUND DIVER を使って保存する方法を説明します。

新機能

1. 32 通りのアンプモデリング・アンプ

POD2.0 には 32 通りのモデリング・アンプが搭載されており（旧モデルでは 28 通り）、フロントパネルのつまみで選択できます（この機能により 1 ~ 16 以上のモデリング・アンプを使用する際 SOUNDDIVER ソフトを使用する必要がなくなりました）。TAP ボタンを押したままモデリング・アンプのつまみを回して 17 ~ 32 のアンプを選択します。

アンプの新モデルについては後ほど詳しくご紹介します。

2. ミックス&マッチ・キャビネットモデル

POD では旧モデルから SOUNDDIVER を通して様々なタイプのスピーカーに接続していましたが、POD2.0 ではダイレクトにスピーカーへ接続できるようになりました。TAP ボタンを押したまま Effect ツマミを回せばキャビネットを選択できます。キャビネットのタイプについては後ほど詳しくご紹介します。

3. カスタム・メイド可能

アンプ・モデルのつまみとエフェクト・つまみの役目は今や、アンプ・モデルやエフェクトの選択だけにとどまりません。例えば Rectifier アンプ・モデルの場合、ドライブ/低域/中域/高域を自動的に設定し、ロック系音楽に最適な状態にします。たった 1 つのつまみをひねるだけで準備完了というわけです。エフェクトのつまミに関して同様です。さらに便利なのは、各アンプ・モデルのつまミとエフェクト・つまミの位置に記録された設定をそのままセットできることです。これによりオリジナルで作った POD の音を、自分の作品に反映させることができます。MANUAL ボタンは自動設定を解除し、つまミの位置通りの音を出す事ができます。このボタンについても後ほど詳しく説明します。

4. 音の送信

POD のユーザーは素晴らしい音を作り出す為にこの機能を頻繁に使います。この ToneTransfer システムは全ての音楽制作において有利な機能なのです。第一に、POD で使用している全ての音楽を Flexitone II シリーズのアンプや新 PODPro に移行させる事ができます。第二に、この音楽の拡張ライブラリーはホームページ：www.line6.com で入手できます。ライブラリーには音楽ジャンル/アーティスト名から検索またはログインしてご自分の好みにあうサウンドを見つけて下さい。ホームページ上ではユーザーが作った音をライブラリーに加えることができます。当社でも今後も素晴らしいサウンド・コレクションを引き続き加えていき、最高のギター・サウンドを提供していきます。

5. POD をアンプ対応にチューニングする

POD には AMP/DIRECT スイッチが付いており、様々な設定において POD の機能を最大限に引き出してくれます。ミキサーやレコーダーに直接 POD をつなげる場合は DIRECT の位置に設定します。別のギター・アンプを使用してフロント・エンドの音造りをするために POD を使用する場合は AMP の位置にして使用します。AMP にチューニング・モードの選択肢を増やしましたので、パワーが大きくても選択できるようになりました。初期設定において POD はオープンバック・コンボタイプのギター入力につないでありますが、新しいチューニング・モードにおいてはクローズバック・タイプのパワーアンプ入力またはクローズバック・タイプのスピーカーのどちらにも接続が可能です。詳細については後ほど図解でご説明します（POD の接続方法の説明に際して図解があるとわかりやすいというユーザーの要望にお応えしました）。

改良点

POD に新機能を付け加える一方で、更にいくつかの改良も加えました。

1. チャンネル切替の迅速化

チャンネル切替機能はより高性能に仕上げられ、結果、迅速かつ円滑なものに仕上がっています。チャンネルを変える際、POD は次々にチャンネルを変えるパラメーターのみを更新します。例えば 2 つのチャンネルがリバーブ・レベル以外すべて同じ設定にしてある場合、そこでチャンネルを切換えるということはリバーブ・レベルだけを更新することになります。チャンネル切替がほぼ瞬時に、かつ確実に行われます。

2. 新 SOUND DIVER

SOUND DIVER ソフトは最新版にアップデートされたので、Flexitone II アンプ ' PODPro/POD2.0 そして POD のすべてに対応するようになりました（最新版 SOUND DIVER のダウンロードに関して当社ホームページ：www.line6.com の Support Section の欄を必ずチェックして下さい）。

改良されたチューナー - 半音階のチューナーがより迅速にかつより正確に機能するようになりました。

アンプ・モデル

旧モデルの POD では (ver.2.0 以前) 28 種類のアンプ・タイプが内蔵されていました。そこでは 1 ~ 16 のアンプは AMP MODEL のつまみから、残りは SOUND DIVER の Deep Editing ソフトや同様のモデルをプリセットしたプログラムから選択していました。そこで POD ユーザーの皆様の「コンピューターなど使わずに POD から直接全てのアンプ・モデルにつなぐ簡単な方法はないか」という声にお応えしたのが Version2.0 です。今回、4 種類のアンプモデルをメニューに追加しました。

1. アンプモデル 1 ~ 16

Amp Model ツマミを回しアンプモデル 1 ~ 16 を選択して下さい。アンプモデルの名前はつまみの周りに記してあります。

2. アンプモデル 17 ~ 32

TAP ボタンを押したまま Amp Model ツマミを回し、アンプモデル 17 ~ 32 を選択して下さい。下記の表は各つまみのアンプモデルの対応表です。

(Hold Tap and turn to:)	Amp Models 17-32	Based on:
(Line 6 Clean)	Line 6 Twang*	Fender Deluxe and Bassman
(Line 6 Crunch)	Line 6 Crunch #2*	'68 Marshall Plexi 50 watt
(Line 6 Drive)	Line 6 Blues*	Marshall JTM-45 meets Budda Twinmaster
(Line 6 Layer)	Line 6 Insane*	Way too many hours of shredding
(Small Tweed)	Small Tweed #2	'60 Tweed Fender Champ
(Tweed Blues)	Boutique #3	Budda Twinmaster head
(Black Panel)	Black Panel #2	'65 Blackface Fender Twin
(Modern Class A)	Brit Class A #3	'60 Vox AC 15
(Brit Class A)	Brit Class A #2	'60 Vox AC 30 non-Top Boost
(Brit Blues)	California Crunch #1	'85 Mesa Boogie Mark IIc+ Clean Channel
(Brit Classic)	California Crunch #2	'85 Mesa Boogie Mark IIc+ Drive Channel
(Brit Hi Gain)	Boutique #1	Dumble Overdrive Special Clean Channel
(Rectified)	Rectified #2	'95 Mesa Boogie Dual Rectifier Head
(Modern HiGain)	Modern HiGain #2	'89 Soldano SLO Super Lead Overdrive
(Fuzz Box)	Boutique #2	Dumble Overdrive Special Drive Channel
(Tube Preamp)	Jazz Clean	1987 Roland JC-120 Jazz Chorus

* 印の付いたモデルは新採用。

新採用のアンプモデルの詳細

Line 6 Twang (TAP ボタン + Line 6 Clean)

このモデルは Fender Blackface Deluxe アンプ ' 60s モデルと Fender Bassman ' 50s モデルを基調にデザインされています (クラシックな Fender のギラつくハイエンドとビンテージアンプに充ちた音のうねりが特徴) 。 Drive ツマミがトップレンジに入るまでクランチャーな音はできません。ここでは黒色の Deluxe や Bassman よりも幅広いトーン・コントロールが可能です。

Line6 Crunch # 2 (TAP ボタン + Line 6 Crunch)

このサウンドは 50W の Marshall Plexi ' 68s モデルを使用しているスタジオで作られました。ですが Plexi とは異なり、このアンプモデルではより幅広いトーン・コントロールが可能です。

Plexi では一度オーバー・ドライブするとトーン・コントロールはあまり機能しなくなります
が、POD では Drive が最高値に設定されていても中域を拾ってくれるのです。

✂ Line 6 Blues (TAP ボタン + Line 6 Drive)

この音は Mashall JTM-45 Bluesbreaker ' 65s モデルを基調としていますが、もっとも幅広い
トーン・コントロールが可能です。このモデルは、高めの Drive 設定にすると Budda
Twinmaster の一種による柔らか目にオーバードライブされた音調を変えられます。

✂ Line 6 Insane (TAP ボタン + Line 6 Layer)

ここで目指した事はできるだけ入力ゲインのディストーションを入れる事でした。音調の詳細
や性質は保持したままで、現在存在するどのアンプよりも大量のディストーションを加えるこ
とのできる素晴らしいチューブ・ドライブを手に入れたのです。結果として、幅広い音形態を
数多く伴ったボトム・エンドやスピーカーの性質が得られるようになりました。ドライブ・コ
ントロールを上げ、自由に音を操って下さい！

ミックス&マッチ・キャビネット (スピーカー) ・モデル

バージョン 2.0 以前では POD のキャビネット・モデルは、各アンプモデルと共に自動的に選択され、
SOUND DIVER ソフトを使ってキャビネット・モデルを変更できました。SOUND DIVER のユーザ
ーの皆様からは、‘ これはとても便利な機能なので、コンピューターがなくても、このスピーカーモ
デルのフル・セクションにアクセスする何かいい方法はないか ’ という声があがっており、その声
にお応えしたのがこの機能なのです。

スピーカーモデルの選択

TAP ボタンを押したまま Effect ツマミを回して 16 ケのキャビネットモデル・セクションの中から
お選びください。

下記の表は選択できるキャビネット・モデル一覧です。

1x8	1960 Fender Tweed Champ
1x12s	1952 Fender Tweed Deluxe
	1960 Vox AC-15
	1964 Fender Blackface Deluxe
	Line 6 1x12
2x12s	1965 Fender Blackface Twin
	1967 Vox AC-30
	1995 Matchless Chieftain
	Line 6 2x12
4x10s	1959 Fender Bassman
	Line 6 4x10
4x12s	1996 Marshall with Vintage 30s
	1978 Marshall with stock 70s
	1968 Marshall Basketweave with Greenbacks
	Line 6 4x12
No Cab	You will probably want to use this Cabinet model with the Tube Preamp model for non-guitar sources. It is selected by default when you pull up the Tube Preamp Amp Model.

カスタム・メイド

新 2.0 バージョン・ソフトで Amp Models や Effect ツマミから呼び出した設定をオリジナルに変更することができます。この素晴らしい新機能を使って、あなたしか持っていない世界中でたった 1 つのサウンドを POD に収納しておけるのです。1 つのツマミを回すだけで瞬時にこの機能が使用できます。この機能をどのように使いこなしていくかという点ですが、Amp Models と Effect ツマミを回すとどうなるのかというところから説明していくことにしましょう。Amp Models ツマミをまわすとモデリング・アンプを選び出し、Effect ツマミを回すとエフェクトが選択されます。

これら 2 つのツマミですが実際には、それぞれシーンの背後に多数のパラメーターが設定されています。モデリング・アンプを選ぶと、POD は下記に示したコントロールを Amp Models のツマミで決定した値に設定します。

印の付いているコントロールはオプションです。

アクセスするには SOUND DIVER ソフトまたは MIDI が必要です。

同様に、Effect ツマミを回すと選択したエフェクトに関連しているすべてのパラメーターを設定します。

この機能により、60ターンのになりましせ。この^埒 で

の設定を呼び出すことができます。あるいは SmallTweed を使用し、そのアンプの設定でカスタム保存を行えば、そこにその設定は保存されるのです。POD は、その時に設定されているアンプモデルの位置に関係なく、適切な場所を選び出し、そこに情報を記録してくれます。ですから誤って Modern Hi Gain 設定を Small Tweed の位置に保存してしまうことはありません。

エフェクトに関しても同様です。POD は、トレモロやロータリー・スピーカーなど何を使用しているても適切なツマミの位置に保存します。

現在どのアンプモデルを使用しているのか、またはどのエフェクトを使用しているのか分からなくなっているオリジナルを作る前にもう一度、把握したい時なども簡単です。

Save ボタンを押し（または押したまま）、Amp Models ツマミ又は Effect ツマミを回すだけです。

正しい位置に回せば、チューニング・インジケータの矢印が両方とも点灯します。アンプモデルが 17～32 モデルの 1 つだった場合は Tap ボタンもはっきりと点灯します。

さあ、これで何をすればいいのかがはっきりしたと思います。それでは次に進みましょう。

カスタム・モードをアクティブにする

初めにすることは Amp Models ツマミや Effect ツマミに保存しておきたいアンプ設定やエフェクト設定を決めることです。このアンプ設定やエフェクト設定は、プリセットされた音からのものであったり、独自に編集した音であったり、Web サイトからダウンロードした音であったり、あるいは SOUND DIVER で呼び出した音からの設定となります。その音がどこから引っ張ってきたものであっても、なくてはならない事はその音を POD に保存することです。これによってアクティブ状態になり、保存されたものを再生していきます。

次に、Save ボタンを押して（又は押しつづけて）、Manual ボタンを押して下さい。Save ボタンと Manual ボタン、A と B のライトが一斉に点滅し始めます（ボタンはこのままにしておいていいです）。ここでカスタム・モードになります。Up/Down 矢印を使って A を選択する場合は Amp Models ツマミに現在のアンプ設定を保存したいコマンドを POD に出して下さい。B を選択した場合、POD は現存のエフェクト設定を 'Effect' ツマミに保存したい事を認識してくれます。以下にその手順を簡潔にまとめてみました。

1. POD に保存したいアンプまたはエフェクトを決めて下さい。
2. Save ボタンを押したまま、Manual ボタンを押して下さい。Save/Manual/A/B のライトが点滅します。
3. Up/Down 矢印を使って A（アンプ）、または B（エフェクト）を選択します。
4. Save を押せば保存は完了です。（途中で中止する場合は Manual を押して下さい。）

トーン・トランスファー機能

POD を使えば、コンスタントに拡張されていくサウンドを得ることができます。また POD/POD Pro/Flexitone II シリーズの音を使用することもできます。スタジオや練習に使った POD のサウンドを、ライブに使用する Flexitone II アンプに移すこともできます。友人の Flexitone II のサウンドをご自分の POD に移すことも可能です。

当社のホームページ www.line6.com の Tone Transfer Web ライブラリーにアクセスしてこの機能を確認して下さい。トーン・ライブラリーは、アーティスト名や音楽ジャンルなどで検索できますのでチェックしてみてください。

また、オリジナルの POD サウンドができた時は、是非ライブラリーにその作品を加えて世界中のユーザーで共有しましょう。これは当社の目指していることの 1 つで、POD やその他の Line6 製品シリーズをユーザーの皆様が音楽制作に使用できる最強のツールにしていくことです。

POD をアンプ向けにチューニングする

別のギター・アンプにおいて大変便利なトーン・シェイプ・フロントエンドとして、または多彩な機能を持つ‘プリアンプ’‘パワー・アンプ’‘スピーカー・キャビネット’として使用することもできます。新バージョン 2.0 では異なる状況下にも対応する最適なチューニングがいくつか加えられ、異なる設定においてもベストな音を得ることが出来るようになりました。

新キャビネット・チューニングモード

初期設定において POD はオープン・バック・キャビネットのフロント部分に接続されています。それ以外に接続したい場合は、キャビネットのチューニング・モードを変更します。次ページに示した簡単な手順にそって変更して下さい。

1. POD の電源を入れ Save ボタンを押したままにします。POD の画面にはキャビネットチューニングモードを示すアルファベットが表示されます。
2. の矢印ボタンを押して、モードを選択します。
3. Save ボタンを押せば、これでこの設定を POD に保存できました。

別のギター・アンプのフロント面に POD を接続する場合や、パワー・アンプやスピーカーに接続する場合には次に示した図をご覧ください。

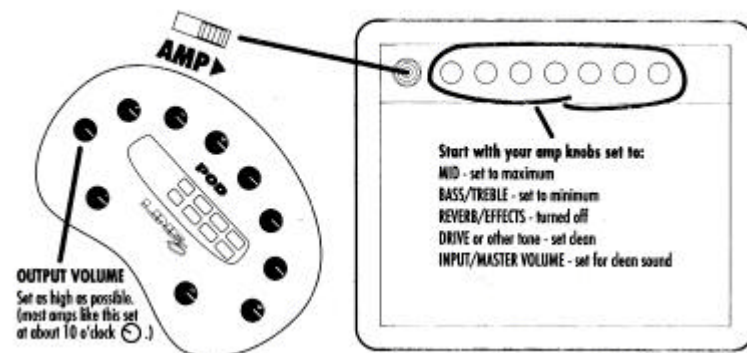
Use Mode...	when POD is...	& your speaker cabs are...
A	feeding power amp	closed back (<i>ideal for 4x12 cab</i>)
B	feeding power amp	open back (<i>ideal for 1x12 cab</i>)
C (default)	in front of combo/head	open back (<i>ideal for 1x12 or 2x12 cab</i>)
D	in front of combo/head	closed back (<i>ideal for 4x12 cab</i>)

どんな場合においても POD の左側の出力をアンプ入力（モノラル）に接続します。ご自分のセットアップから最高の結果を得るには、‘ DIRECT ’ ボタンのところにある A.I.R.スイッチを試してみてください（小さめのアンプに使用する時に最適です）。また、アンプの他のツマミの設定も行ってみてください。

接続例：

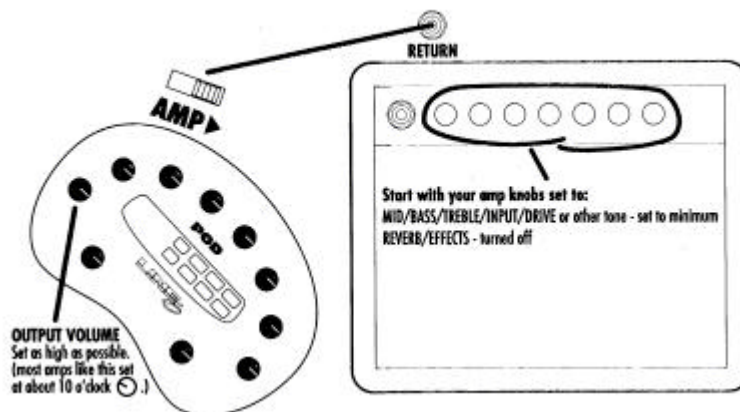
* コンボ・アンプやヘッドのフロント・エンドとしての POD 使用

POD As Front End for a Combo Amp or Head



* コンボ・アンプやヘッドの INSERT/RETURN に接続

POD Connected To Insert/Return of a Combo Amp or Head



* POD をパワー・アンプに接続しスピーカーを鳴らす。

POD Into a Power Amplifier Driving Speaker Cabinets

